

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	4	学校名	静岡県立伊豆伊東高等学校（全日制）	校長名	池田 将章
------	---	-----	-------------------	-----	-------

【教育目標】（伊東地区新構想高等学校基本計画）

自ら考え、行動する力を持ち、豊かな感性と教養を身につけ、他者と協働し、未来を創造する人間を育てる。

【教育方針】（伊東地区新構想高等学校基本計画）

- (1) 高いところざしを育み、探究活動を通して、自分の将来に向けて成長する生徒を育てる。
- (2) 専門的・先進的な知識を身につけ、様々な体験を通して、生涯にわたり学び続ける生徒を育てる。
- (3) 多様性を理解し、人とのかかわり合いを通して、グローバルな視野を養い、地域の発展に力を尽くす生徒を育てる。

【校訓】

真理を尊ぶ人であれ 価値を生み出す人であれ 他者を支える人であれ

1 スクール・ミッション

東豆地区の高校教育の拠点として、個に応じた新しい時代の学びに対応した教育活動を展開することで、未来を創造する人材の育成を目指す。

2 スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>～本校では卒業までにこのような資質・能力を身に付けます～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎的知識・技能</u>（豊かな感性、豊かな教養） ・<u>個々の学科・類型や志向に応じた専門的知識・技能</u> ・<u>情報収集・分析力</u>（確かな情報収集、幅広い視野、深い洞察力） ・<u>課題発見力、解決力</u>（論理的思考力、構想力、ポジティブシンキング、発信力） ・<u>セルフコントロール</u>（感情制御力、ストレスに対応する力、レジリエンス、粘り強さ） ・<u>自分らしさの創出</u>（自己肯定、工夫する力、突破する力、独自の発想力） ・<u>責任ある行動を取る力</u>（挑戦する意欲、目標の明確化、効果的な計画立案） ・<u>協働する力</u>（チームワーク、リーダーシップ、柔軟性、コミュニケーション能力） 	<p>～本校ではこのような学びを行います～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の学科、類型を併置することで、個々の特性やキャリアデザインに合わせた学習内容を構成し、学科や類型の横断による創造的な学び ・併置する特別支援学校との日常的な共生・共育、多様な生徒の実態に応じたソーシャルスキルトレーニング ・伊東地区の豊かな自然環境や観光資源を活用し、多面的な視点で探究的な学び ・特別活動、部活動においても育てたい資質・能力を伸ばすことを目指した取組 	<p>～本校ではこのような生徒を求めています～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、行動する力を伸ばす意欲のある生徒 ・豊かな感性と教養を身につける意欲のある生徒 ・他者と協働し、未来を創造する意欲のある生徒 ・校訓に基づき、将来にわたり、真理を尊び、価値を生み出し、他者を支える人でありたいと希求する生徒

3 スクール・ポリシー具現化の柱

本校は、グラデュエーション・ポリシーで示した「8つの力」を卒業までに「育てたい力」として位置付けた。生徒・教職員が相互協力体制を構築して、より良い学校づくりの使命を自分事として捉え、「育てたい力」を伸ばす新しい学校の教育活動を推進するため、以下のア～コをスクール・ポリシー具現化の柱とする。

ア 確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上を図り、学科、類型ごとの特色化を進める。

イ 生徒が心身ともに健康的で他者を思いやる生活を送るための指導・支援の充実を図る。特別支援学校との交流等を積極的に展開する。

ウ 生徒の社会的・職業的自立を促すキャリア教育を展開し、生徒個々の進路実現を図る。

エ 伊東地区唯一の高校として地域連携、地域貢献活動等を通して探究的な学びを展開し、地域・保護者に愛され、信頼される学校づくりを推進する。

オ 特別活動、部活動の活性化を図る。

カ 行きたい学校づくり推進事業の指定に基づくデータサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム等を構築する。

キ 「育てたい力」をどの程度伸ばすことができたのかを検証する。

ク 生徒の豊かな学びの前提となる教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善を推進する。

ケ 生徒の豊かな学びの前提となる安心・安全で快適な教育環境の整備を図る。

コ 生徒の豊かな学びの前提となる確実で効果的な学校事務執行を推進する。

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

「共」：学科共通 「普」：普通科 「商」：ビジネスマネジメント科

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア 確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上 学科、類型ごとの特色化	小集団や習熟度別学習集団によるきめ細かな指導や生徒アンケート（年間3回予定）を通して、新しい学びに向かうために必要な「確かな学力」を育成する。（基礎学力の定着）	・秋実施の到達度テストの再実施で学習到達度が上昇した生徒95%以上【1、2年生共】	教務課 図書課 進路指導課 芸術科 商業科 類型委員会
	初期指導等を通じた、学習習慣の定着を図る。	・1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】	
	授業アンケート等を通して、生徒の学習到達度を確認する。	・「授業がわかる」回答生徒割合80%以上【共】	
	スタディサプリを活用し、個に応じた学力の向上と学習習慣の定着を図る。	・「スタディサプリを活用した学習は有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】	
	各種検定試験や校外団体主催の論文コンテスト等への積極的挑戦を奨励する。	・受検実績が1人1回以上【普】 ・卒業時検定取得2種目以上【商】 ・放課後等検定補習実施【商】	
読書習慣の定着と学校図書館の利用を促進する。	・朝読書の時間設定【共】 ・一人年3冊以上の読書【共】 ・図書館を利用した授業や講座を校内全体で月3回以上実施【共】		

様式第1号

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	<p>普通科特別進学類型は、バランスのとれた確かな学力とその学びを保証し、国公立大学、難関私立大学を目指そうとする生徒の学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月進研模試（国数英）で平均GTZがB1以上（1・2年生）の生徒70%以上、2年2月マーク模試から共通テストの得点が100点以上上昇した生徒80%以上（3年生） ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 <p style="text-align: center;">【普・特進】</p>	
	<p>普通科進学類型の多様な進路に応じた、適切な進学指導を充実させ、学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 <p style="text-align: center;">【普・進学】</p>	
	<p>普通科アート類型の教育活動の特色化と専門性の深化を図り、学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アート類型に設置された専門の授業により、アートの専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 ・全国レベルの大会やコンクール出場2件以上 <p style="text-align: center;">【普・アート】</p>	
	<p>普通科スポーツ健康類型の教育活動の特色化と専門性の深化を図り、学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ健康類型に設置された専門の授業により、スポーツ健康に関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 <p style="text-align: center;">【普・ス健】</p>	
	<p>ビジネスマネジメント科の教育活動の特色化と専門性の深化を図り、学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「商業科目の授業により、ビジネスに関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 ・全国レベルの大会出場2件以上 <p style="text-align: center;">【商】</p>	

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
イ	心身ともに健康的で他者を思いやる生活	昇降口指導での声かけ等により、基本的な生活習慣を確立し、明るい挨拶、爽やかなマナー、きちんとした身なりを通して、伊豆伊東高生としての誇りと自覚を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「服装を正し、礼儀やマナーをわきまえて行動している」回答生徒割合90%以上【共】 ・「地域や近所の人と会うとあいさつをしている」回答生徒割合80%以上【共】 	生徒指導課 保健課 共生共育推進委員会 情報広報課
		心身の健康に関する保健教育の充実を図り、毎月発行する保健だよりや薬物講座、AED講習を通して、生徒の健康意識や自己管理能力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率90%以上【共】 ・年間欠席日数10日以内、遅刻早退については年間合計日数10回以内の生徒の割合90%以上【共】 ・「健康的で他者を思いやる生活ができている」回答生徒割合85%以上【共】 	
	特別支援学校との積極的展開	保健室、学年部、担任、副担任、相談室が連携し、悩み等を抱えている生徒や不登校傾向等の生徒に早期支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活サポートシート等を活用した「生徒情報交換会」学期1回【共】 	
		いじめの未然防止と早期発見、対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みに応じてくれる先生がいる」80%以上【共】 ・いじめアンケートを年2回実施【共】 	
		情報機器マナー講座を通してSNS等の適切な利用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分を理解し大切にしてくれる友がいる」回答生徒割合90%以上【共】 	
		生徒の教育的ニーズを適切に理解し、個に応じたソーシャルスキルの習得に向けた支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標を持ち、充実した学校生活を送っている」回答生徒割合85%以上【共】 	
		特別活動や行事、HR活動、生徒会活動、部活動を通して、良好な人間関係づくりと自己肯定感の涵養、向社会的スキルの育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に自分の居場所があると感じる」回答生徒割合80%以上【共】 	
		巡回通級等において、配慮を要する生徒に対してSST、アサーショントレーニングを月1回以上実施する。		
	1、2年生に対して1分間カウンセリングを実施する。			
	伊豆高原分校の生徒と交流を図り、共通理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生・共育を通じて多様な価値観を受容する大切さがわかったと感じる」回答生徒割合80%以上【共】 		

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ウ	キャリア教育の展開による生徒個々の進路実現	<p>3年間を見通し、進路シラバスに沿った進路指導を実践する。（分掌、学年部との連携）</p> <p>個別指導を通し、卒業後までを見越したきめ細かな指導・助言に努め、個々の生徒への支援を充実させる。（3年）</p> <p>教務課と学年部が連携し、進路希望に応じた奨学金情報を提供する。（3年）</p> <p>積極的な企業及び学校訪問により情報の取得と共有を行い、多様化した進路希望への対応を強化する。（3年）</p> <p>検定等資格を活用した大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等に挑戦させる。</p> <p>インターンシップや一日体験ナース等の職業体験を通して将来の生き方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学か就職かを決めている割合80%以上（1年）【共】 ・興味のある学問・職種がある生徒の割合80%以上（1年）【共】 ・進学の場合の校種や内容、就職の場合の職種を決めている割合80%以上（2年）【共】 ・「進路実現に向けての面接指導や教員による個別指導が役に立った」回答生徒割合80%以上【3年共】 ・検定等資格を活用した大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等による受験者数の昨年度比増加【商】 ・体験参加者のうち、「職業体験は将来の生き方を考える上で有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】 	進路指導課 教務課 学年部 商業科
エ	<p>探究的な学びの展開</p> <p>地域・保護者に愛され、信頼される学校づくり</p>	<p>3年間を見通した「総合的な探究の時間（みらい学）」の計画を策定する。</p> <p>「総合的な探究の時間（みらい学）」充実のため、市役所等外部との連携を図る。</p> <p>ビジネスマネジメント科での「課題研究」で産学官との連携を進め、地域課題の解決策を提案し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。</p> <p>ビジネスプラングランプリ等外部団体が主催する事業に参加する。</p> <p>伊東市活性化プラン等地域課題の現状を把握し、解決策を提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間（みらい学）」の取組で情報収集・分析力が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「総合的な探究の時間（みらい学）」の取組で課題発見力、解決力が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「総合的な探究の時間（みらい学）」の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えるようになった」回答生徒割合80%以上【共】 ・「『課題研究』に取り組んだことでコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高まった」回答生徒割合80%以上【3年商】 	探究委員会 総務課 情報広報課 商業科 教務課 管理職

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		<p>学校HPや学校公式SNSを随時更新し、国内外に向けた広報活動を行う。</p> <p>授業参観、公開授業、学校見学会等を推進、また中学生1日体験入学などの内容の充実を図る。</p> <p>学校運営協議会の意見をもとに、学校運営の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公式X、Instagramのフォロワー数昨年度比1.5倍。 「中学生1日体験入学に参加してよかった」回答参加者割合 80%以上【共】 「本校は、社会に開かれた学校運営がなされている」回答学校運営協議会委員 80%以上【共】 	
オ	特別活動、部活動の活性化	<p>生徒会活動への主体的な参加を奨励し、統合後の生徒相互の協力する雰囲気醸成する。</p> <p>リーダーの育成とその活性化を図る。</p> <p>文化祭、体育祭等の計画や準備を通じ、生徒の一体感を高め、各行事の充実を図る。</p> <p>修学旅行の計画、準備を進め、充実を図る。（2年）</p> <p>部活動を奨励し、生徒が互いに人間性を高め合える場としての指導の充実に努める。また、学習と部活動の両立の実現を支援する。</p> <p>部活動指導員、スポーツエキスパート及び文化の匠事業による外部人材の活用を図る。</p> <p>生徒会、部活動、自主的な活動を通じた地域貢献活動、ボランティア活動を推進する。1部活動1貢献活動を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「リーダー研修会に参加してリーダーとしての自覚が高まった」回答割合90%以上【共】 「各行事は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】 「修学旅行は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】 「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合75%以上【共】 「部活動下校午後7時」（原則）の徹底【共】 「生徒会、部活動、自主的な活動等を通じた地域貢献活動、ボランティア活動に参加して活動の意義を実感した」回答割合70%以上【共】 	生徒指導課 学年部
カ	データサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム等の構築	<p>関係機関等との連携に係る研究、関係機関等の講師、学生等による助言を得る。</p> <p>教員対象校内研修を実施する。</p> <p>普通科、ビジネスマネジメント科が学科横断的に連携した生徒対象データサイエンス入門講座の実施に係る研究を行う。</p> <p>2年生普通科の科目「情報I研究」においてデータサイエンス入門の単元設定を試行する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「データサイエンスに興味関心を持った」回答生徒割合70%以上【2年普・進学・アート】 「データサイエンスの手法を用いて探究的な学習に取り組むことができた」回答生徒割合50%以上【1、2年】 	データサイエンス委員会 研修課

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		「総合的な探究の時間（みらい学）」においてデータサイエンス手法を用いた探究学習を試行する。 本校のデータサイエンスに関する取組をホームページやSNSで紹介する。		
キ	「育てたい力」伸長の検証	グラデュエーション・ポリシーで示した「8つの力」の年度当初からの伸長を、学びみらいPASSや新たに作成したルーブリックを用いて検証する。	・「学びみらいPASSや新たに作成したルーブリックを用いた生徒の自己評価は生徒の成長を測定するツールとなった」回答教員割合80%以上	進路指導課 学年部
ク	教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善	年次別研修を中心に、授業力向上と観点別学習評価についての校内研修を実施し、個々の改善への取り組みを促す。 校内研修を年5回以上実施する。 授業見学週間を年2回設定する。	・「校内研修により授業力向上につながった」回答教員割合80%以上 ・「他の教員の授業見学により授業力向上につながった」回答教員割合80%以上	研修課 教務課 情報広報課 事務室 管理職
		ICT機器や一人一台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びを実践するための授業改善を行う。	・「ICTや一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合80%以上【共】 ・「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合95%以上【共】 ・「一人一台端末の活用が有意義だった」回答1、2年生徒割合70%以上【共】	
		OJT、チーム研修等を活用した「信頼できる先生」を育成する。 年次別研修該当者と希望者によるチーム研修を年2回実施する。	・「信頼できる先生がいる」回答生徒割合80%以上【共】 ・「年次別研修に参加して有意義だった」回答教員割合80%以上	
		教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。 コンプライアンス研修を含めた職員研修を月1回以上実施する。	・「常にコンプライアンス意識を持って職務に臨んでいる」回答教職員割合100%	

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		<p>勤務管理の徹底と健康維持に努める。</p> <p>I C T活用による校務のD X推進を図る。</p> <p>職員室をはじめ、働きやすい環境となるよう留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の夏季休暇完全取得100%【共】 ・「平均して週1回以上は勤務時間終了後1時間以内に退勤できた」回答教職員割合100%【共】 ・「平日の完全退勤時刻20時を原則的に守ることができた」回答教職員割合100%【共】 ・「校務のD X化が年度当初より進んだ」回答教職員割合80%以上 ・「職員室をはじめ新高校が働きやすい環境になるよう留意した」回答教職員割合90%【共】 	
ケ	<p>安心・安全で快適な教育環境の整備</p>	<p>校舎の施設設備について理解を深め、事故を防ぎ、防災安全等の危機管理意識の向上に努める。</p> <p>危機管理マニュアルの浸透に努める。</p> <p>緊急避難経路の確認を徹底する。</p> <p>定期的な施設設備の安全点検を実施する。</p> <p>A E D講習を実施する。</p> <p>防災教育連絡会議へ参加する。</p> <p>防災備品を充実させる。</p> <p>行政と連携して災害時の役割分担を明確化し、地域防災訓練等への参加を促進する。</p> <p>実践的な防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。</p> <p>校舎の環境美化を推進し、生徒の美化意識を醸成する。</p> <p>生徒が安心安全に学習や活動に取り組める教育環境を整備する。</p> <p>一足制である校舎の美化意識を高め、清掃活動を徹底する。</p> <p>ゴミ分別を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の安心安全を第一に教育活動を実施することを意識している」回答教職員割合100% ・「安全や防災に関わる講習や研修に積極的に参加している」回答教職員割合100% ・生徒の地域防災訓練参加率90%以上【共】 ・「家庭でも大規模災害に備えている」回答生徒割合80%以上【共】 ・「校舎をきれいに、施設や備品を大事に使うように心がけている」回答生徒割合90%以上【共】 ・「ごみを出さない、ごみをきちんと分別する、電気をこまめに消す等、環境を守ることの大切さを理解した行動をしている」回答生徒割合80%以上【共】 	<p>総務課 保健課 事務室</p>

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
コ	確実に効果的な学校事務執行	教職員間の連携を図り、健全な校務執行と計画的で有効な予算執行を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 「事務室と職員室との連携がよく取れている」回答教職員割合80%以上 	事務室